

3. 計画高水流量について (住民討論集会の論点)

出典： 熊本県作成

3. 計画高水流量について

(1) 川辺川ダムを考える住民討論集会

ダム反対側	国土交通省 容認・推進側
<p>○ 現況流下能力(現況河道流量) ..「説明資料4-1 P1 ~ 5 参照」</p> <p>(人吉地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4, 300 m³/s ※現況河道で流下可能流量を不等流計算により計算 <p>・5, 400 m³/s</p> <ul style="list-style-type: none"> ※平成15年6月30日 「川辺川ダムの体系的代替案」 ※現状でも堤防天端(堤防の余裕高を見込まない。)まで許容した場合 <p>(八代地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9, 000 m³/s ※八代地区では過去に6, 500~7, 000m³/sの洪水が5回流下している。そのうち昭和57年と平成7年の洪水痕跡を見ると、計画高水位に対して、1. 5m以上も低いところを流れており十分余裕がある。 ※痕跡水位から考えて、8, 600m³/sが流れても計画高水位を下回ることは確実である。 	<p>○ 現況流下能力(現況河道流量) ..「説明資料4-1 P6 参照」</p> <p>(人吉地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 900 m³/s ※平水位以上の掘削等の河床整正を行った場合の評価 ※法令どおり、余裕高をとった場合の評価 <p>(八代地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6, 900 m³/s ※堤防の断面不足等を考慮し、堤防の安全性を評価
<p>○ 計画高水流量(計画河道流量) ..「説明資料4-1 P8 参照」</p> <p>(人吉地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5, 400 m³/s ※計画河床までの河床掘削を行い、未整備の堤防を整備した場合 ※堤防の余裕高1. 5mを確保した場合 <p>(八代地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8, 600m³/s以上 ※現在の堤防を強化することで80年に1回の洪水に対応可能 	<p>○ 計画高水流量(計画河道流量) ..「説明資料4-1 P6 参照」</p> <p>(人吉地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4, 000 m³/s ※昭和40年代の計画は、環境調査等があまり実施されていない頃に設定した断面 ※舟下りや環境への影響を配慮しつつ、大規模な岩掘削を行うことは技術的に困難であるため、可能な範囲(平水位以上の河岸)まで掘削を行っても、4, 000m³/sが限度 <p>(八代地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7, 000 m³/s ※川辺川ダムと市房ダムによる洪水調節により、その結果、萩原地点で7, 000m³/sを設定

(参考) 1. 基本高水について

(1) 川辺川ダムを考える住民討論集会

ダム反対側	国土交通省 容認・推進側
<p>治水安全度：1/80年 基準地点：人吉、横石 計画降雨継続時間：2日間 流出計算：流量確率法(5手法により確率処理)</p> <p>○ ダム反対側の結論 (平成15年6月30日 「川辺川ダムの体系的代替案」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人吉地点 : 5, 500 m³/s ・横石地点 : 7, 800 m³/s ※森林の生長と人工林の針広混交林化の効果を考慮して科学的な計算を行った結果、十分な安全度を見た上で、80年に1回の基本高水流量として算出 	<p>治水安全度：1/80年 基準地点：人吉、八代 計画降雨継続時間：2日間 計画降雨量：3手法により確率処理 流出計算：単位図法</p> <p>○ 国土交通省 容認・推進側の結論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人吉地点 : 7, 000 m³/s ・八代地点 : 9, 000 m³/s